

## 土づくり編特別テーマ

# 来年につながる土づくりにむけて 〈ガス湧き対策特別号〉

### ◎中丹管内では「ガス湧き」で大きく収量を落としています。

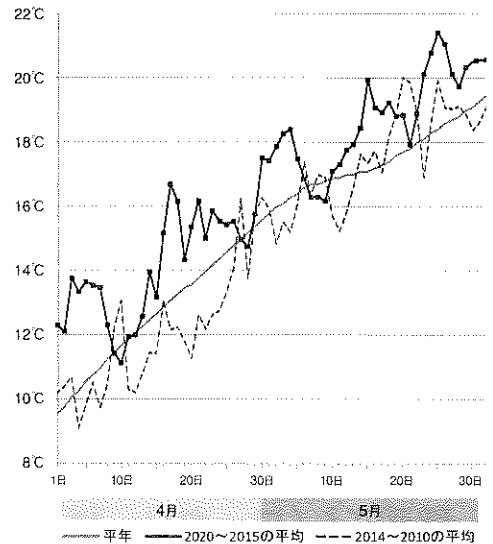
硫化水素など有害ガスが発生する「ガス湧き」が認められるほ場が増えています。秋起こしが遅れる等によって、稲わら等有機物の分解が田植までに充分進まないことが原因ですが、右のグラフで示したように、近年の高温傾向も大きく影響しています。

ガス湧きは、湛水状態で地中の稲わらや有機物等が微生物によって急激に分解されることにより発生し、水稲の生育不良につながります。

田植え後すぐに「ガス湧き」が発生すると、活着が遅れ葉色が薄いままの状態が続きます。この結果、十分な分けつ数がとれなくなって減収につながっています。

収量を確保するためには、ガス湧きの対策が必須です。

4～5月の気温



## 「ガス湧き」チェック

### あなたの田んぼは大丈夫ですか？

- 1 田植え10日後くらいにはほ場に入るとブクブクと泡が発生する。
- 2 田の耕深が年々深くなっており、代かきや田植え作業の時に機械が沈みそうになる。
- 3 田の進入口周辺や田の周囲(枕部分)で生育不良が生じることが度々ある。
- 4 田植え後から生育が止まり、分けつが十分に確保できない。

上の症状が一つでも見られたら、田のガス湧きが進行していると考えられます。

### ◎稲収穫後に取り組むべき対策

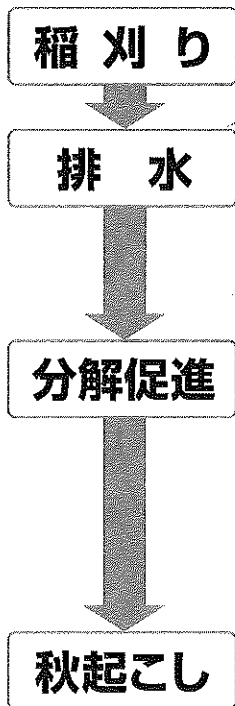
田のガス湧き対策は、稲わらを速やかに分解するための一連の土づくり作業が重要です。次年度につながる土づくりに積極的に取り組みましょう。

**対策の詳細は裏面**

## 【対策】

- ① 田を乾かすため、排水を向上させる
- ② 稲わら分解促進のため、石灰窒素等を散布する
- ③ 機械作業を丁寧に行い、土を練らないように秋耕する

## 稲刈りから秋起こしのポイント



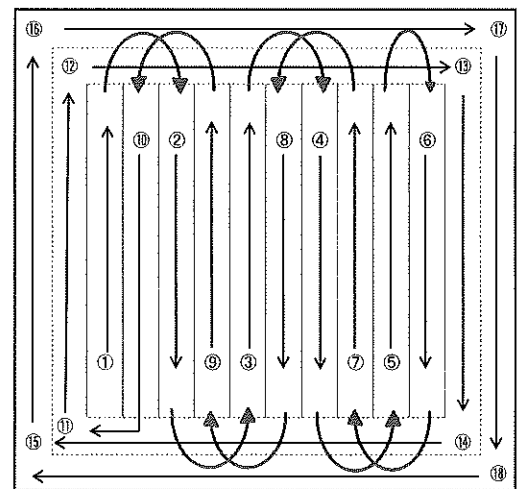
### 稲刈り後早めに

稲刈り後は水尻をしっかりあけて乾きやすくしましょう。  
 轍(わだち)など滞水しているところは溝を切って排水溝に繋げましょう。

稲わらの分解促進のための資材を散布しましょう(下記の表の土づくり資材と有機物腐熟促進材を併用してください)。石灰窒素を散布すると分解が促進されます。

土を練らないように浅めに耕耘作業を行いましょう。特に田の枕地は、機械が頻繁にターンするため、深くなったり土を練りがちです。一畝おきに耕耘する、枕を2周とるなど、枕地に負担をかけない工夫をしてください。

### 耕耘の順番の例



## 秋起こし(ロータリー耕)のチェックポイント

爪の幅が2cm以上あることを確認しましょう

- 深さ 5~10cm
- PTO 1速で(荒く起こすためにロータリーの回転はゆっくりと)
- エンジン回転はなるべく落として(土を後方に飛ばさないように)
- 車速 1.5~2.0km/h(なるべく早く。使用されるトラクターの車速表を参照してください)
- リアカバーは上げて使う(土をカバーに当てて細かくしない)

秋起こしの後の排水対策には畝立機や片培土機、また、内爪にした内盛耕(尾輪必須)等で耕耘後に排水を良好にし、田が乾くようにしましょう

## 〈土づくり資材の施用例〉

秋起こしの前には、ミネラル分やケイ酸分を含む土づくり肥料を散布しましょう。

### 土づくり資材と有機物腐熟促進材の使用例 \*10a施肥量

土づくり資材	施用量	有機物腐熟促進材	施用量
BMとれ太郎	80~100kg	石灰窒素	20kg
オイスターミネラル	100kg	ワラゴールド	30kg
ケイカル	100~200kg		

詳しくは、JA又は普及センターにお問い合わせください。